

齋藤別当実盛公敬仰会 総会にて講演

氏名：本谷 隆 職業：こまつ国府ふるさと会 会長 都道府県：埼玉県

平成27年9月12日（土）齋藤別当実盛公敬仰会
総会にて「齋藤別当実盛公とのご縁」を演題に、
講演会を行いました。

自身と、妻沼聖天山との出会い、小松市の紹介、
少年時代の様子、遊行上人と兜回向祭等映像を通
して、自身の歩みと人としての生き方について話しました。

講演の内容の一部が「齋藤別当実盛公敬仰会会報」に掲載されました。



<会報>



※画像をクリックすると、PDFファイルにて内容を確認できます。

第 21 号

発行 平成27年12月1日
斎藤別当実盛公敬仰会

発行者 西山 敏彦
編集長 小久保 英雄

事務局

〒360-0201 埼玉県熊谷市妻沼1627
妻沼聖天山歎喜院内
Tel 048-588-1644

【郵便振替口座】0530-7-49330

斎藤別当実盛公 敬仰会会報

会報第二十一号の 発行に寄せて



敬仰会会長 西山 敏彦

会報第二十一号の発行に当たりご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から本会の充実と事業の推進にお力添えをいただいておりますことに対し厚くお礼を申し上げます。

御陰様で本年度の事業も予定どおり実施することができました。

まず、七月十一日(土)の総会において鈴木英全院主様が名誉会長に就任することになりました。

皆様ご案内のように院主様は、昨年度高野山東京別院主監に就任され週の半分以上のお勤めで今迄以上の多忙な日々とのことです。

院主様には、敬仰会創立以来事務局の立場で会の運営にお力添えをいただいておりますが、今迄は大所高所からご指導いただくことになりました。なお、他の役員は留任いたしました。総会当日の午前中には、実盛忌法要が境内銅像前で盛大に行われました。

恒例の文化講演会は、九月十二日(土)に開催しました。当日は、石川県小松市出身で石川県人会常任理事であり地元妻沼にお住いの本谷隆様に講演いただきました。講演に先立

つてエプロンシンク、妻沼八木節保存会皆様の上演をいただきました。

続いて、本谷様から「斎藤別当実盛公とご縁」の演題で、ご本人と妻沼聖天山との出会い、小松市の紹介、少年時代の様子、遊行上人と兜回向祭等映像を通して、ご自身の歩みと人としての生き方についてお話いただきました。

講演終了後、詩舞実盛慕情の上演と修了式、入会式が行われました。

九月二十七日(日)には、妻沼地域文化財調査研究会と共催で、実盛公ゆかりの時宗総本山清浄光寺(遊行寺)等を訪ねる研修会を実施いたしました。今回も院主様のお計らいで法主の他阿真円上人様にもお会い出来ました。そして、上人様から御法話と御賦算を授かりました。

九十六歳とは思えないほどのお元氣な上人様のお姿に接し、参加者一同生きる力をいただいております。

以上が本年度の事業概要です。終わりに、エプロンシンク、妻沼八木節保存会、詩舞「実盛慕情」の皆様の敬仰会に対するご協力に感謝申し上げます。

多太神社 御所蔵

実盛公兜 復元品公開

毎月21日 9時~16時
聖天山御札授与所右側

新会員募集のご案内

平成27年度の新会員ご希望の方は、事務局までご連絡ください。
【どなたでも入会できます】
(年会費1,000円)



斎藤別当実盛公敬仰会・妻沼地域文化財調査研究会
時宗総本山「遊行寺」参拝 平成27年9月27日

文化講演会

斎藤別当実盛公とのご縁

石川県小松市出身 こまつ国府ふるさと会会長
石川県人会 常任理事

本 谷 隆 先生

平成二十七年九月十二日(土)

(この講演は多岐に渡りましたが、紙面の都合で一部分のみとさせていただきます)



私が表沼の上根に住まいを構えたのは、今から四十一年前です。長男が妻沼幼稚園に入園し、夏祭り子供みこしを担ぐ事になり、保護者が歓喜院に集まりました。

院主様が「こういう機会は滅多にないので、自己紹介をしましょう」と言われ、私の番になったので、「私の田舎は石川県の小松市です」と言ったら、院主様が「それは奇遇ですな」と言われ、始めは何の事か分からず、質問しますと、小松の近くの片山津は斎藤別当実盛公の終焉の地であり、その兜が小松の多太神社に祀られていると聞き、本当に驚きました。

会社のご縁で表沼に来て、そして聖天様のご縁で、私はこうしてお話をさせて頂いています。大変不思議で、有難い事です。

昨年九月には敬仰会の皆様と斎藤別当実盛公の終焉の地を訪ねる旅に同行させて頂き、私は観光特使として石川県や小松市にも協力頂きましたが、篠原の実盛塚を訪れた時の皆

様の行動に私は驚きました。参加された皆様全員が、実盛塚の周りの草取りをし、お酒で清め、お線香を立てて、全員で般若心経を唱えられた事です。本当に実盛公に対して熱い想いを持っておられる事を身をもって体験致しました。

平成二十五年、第七十四代遊行上人一行が、この聖天様にもこ来山されておりますが、小松市の多太神社には、遊行上人の代替わりごとに回向祭が行われ、上人がお参りされる事になっていました。

松尾芭蕉も「奥の細道」の旅の途中で多太神社を訪れ、実盛公の兜を見て詠んだ有名な句があります。
むざんやな甲の下のきりぎりす

この句の意味について、院主様は「敬仰会会報」の第十四十五号で「むざんやな」の意味は、実盛公ではなく、その首にひしがれた木曾義仲であった。あの首洗いの池のほとりである木曾義仲と樋口次郎兼光、手塚太郎光盛の三人の像はそれをよく表している。「源氏の兜」即ち実盛公

に守られた幼いきりぎりすは、幼少の義仲―即ち駒王丸である」と記されています。これは実盛公の全てを研究されている院主様ならではの考察で、大いに感銘いたしました。



▲石川県観光特使



▲文化講演会の様子

▼妻沼東西中学舞踊生による詩舞



現在の世界の人口は約七十二億人ですが、奇跡の様に巡り合っているからこそ、一つ一つの出会いに感謝して大切にしていきたいと思っております。

(文責 編集部)